



～もう一人の自分たち～

校長 島浦 昌乃

ふるさと宇美を愛し、志をもって、たくましく未来を生きる生徒の育成 (文責：教頭 土器 修)

『百歌玲蘭～南中の声を響かせ 彩りのある華咲かせ～』～文化発表会の実施～

10月6日(木)より令和4年度第25回文化発表会の展示発表が本校多目的室にてはじまりました。授業や部活動の成果である作品はどれも力作揃いで、会場内は、立ち止まって作品に見入っている生徒の姿、思わず賞賛の声をあげている生徒の姿がありました。南中生の豊かな感受性と個性がきらめく展示発表となりました。



展示発表の様子

10月14日(金)には本校体育館でステージ発表を行いました。本年度も本県教育委員会の通知に基づき、新型コロナウイルス感染症対策として、保護者の皆さま、地域の皆さまには参観を控えていただき、合唱曲を各学級1曲のみに制限して実施しました。

この文化発表会は、目標に向かって互いに切磋琢磨し、お互いのことを思い、お互いのことを認め合える南中生になることを目指すもので、まさに文化そのものなのです。文化発表会に『百歌玲蘭』を真摯な姿勢で目指すことで、創造力、共感する心を培い、新たな南中の文化、生徒の皆さん一人一人の不透明な時代に生きる力を創造する基盤づくりのためにも、全校生徒でこの文化発表会を成功させましょう。

校長先生のお話

開会式では、校長先生から文化発表会の意義についてお話がありました。南中生は、それぞれ目標に向かって創意工夫し、相手の思いを受け止め、南中の新たな文化を創造して意義を全うすることができました。



読書サポーター養成講座



弁論

学習成果発表では、英語スピーチ、弁論、理科自由研究、読書サポーター養成講座、総合的な学習の時間の報告、発表を行いました。どの発表者も声の抑揚、身振り、寸劇などの工夫を凝らし、学びの成果を聴いている側に強く訴えることができました。続く合唱コンクールでは、どの学級も最高の合唱を目指し、表情豊かに美しいハーモニーを響かせました。3週間の学級練習等で学級の仲間と協力し、各リーダーの指示や先輩、後輩のアドバイスをもとに工夫・改善を重ねてこの日を迎え、練習の成果をいかに発揮しました。審査員としてお招きした福岡県立須恵高等学校の原田法之先生からは、「どの合唱も熱意あふれる合唱で、勇気をもらいました」という高い評価をいただきました。3年生が練習に向かう自らの姿で全校の練習を力強くリードしてきた賜です。閉会式では文化委員長の坂東七彩さんが「どの学級も金賞を取ってもおかしくないくらいの歌声を響かせてくれました」とこれまでの南中生の取組の過程を賞賛しました。その言葉のとおり、南中生一人一人が役割を自覚し、集団の一員としての責任を果たしたことで、スローガン『百歌玲蘭～南中の声を響かせ 彩りのある華咲かせ～』を達成できたと確信しています。



総合的な学習の時間(左3年、右2年)



生徒の自己評価アンケート結果とふり返りの内容を紹介します。

<自己評価アンケート>

質問項目	平均
学級目標を達成するために周りに声をかけ、仲間同士で励まし合うことができましたか【自立】	3.49
リーダーが中心となり、仲間のよさを認め、支え合いながら合唱の練習を行うことができましたか【友愛】	3.70
学習成果発表を聴いたり、展示発表を見たりすることで、文化に親しみ、学びを深めることができましたか【向学】	3.53

<3年生ふり返り>

- 1、2年生には今年の文化発表会より最高のものにしてほしいです。1学年は、2学年と協力しつつ、2学年を超えるような合唱にしてほしいです。
- 今までの文化発表会は本気になれませんでした。最後の文化発表会で目標達成ができなくて悔しいと思えるくらい本気で表現しました。

<2年生ふり返り>

- 人前で話すことが苦手でしたが、発表して人前で考えを述べるいい機会になりました。少しずつ発表にチャレンジしていきたいです。
- 仲間と協力して1つのことに挑戦する大切さを改めて考え、成長することができました。修学旅行では、もう一つレベルを上げていきたいです。

<1年生ふり返り>

- 「伴奏を間違えたら・・・」という不安もありましたが、「伴奏が止まっても歌い続ける」と皆が約束してくれたので、仲間を信じて全力を出せました。
- はじめ、恥ずかしくて声を出せてなかったです。仲間が頑張っているのに、声を出さないことが恥ずかしく思え、全力を出すことができました。



3年2組「最上川舟唄」合唱練習の様子



最優秀指揮者賞



最優秀伴奏者賞



最優秀賞 2年2組「ほらね、」合唱の様子



表彰の様子(金賞：3年1組、2組、2年1組、2組、最優秀賞：2年2組)

小中連携の協働活動の推進 ～小中連携あいさつ運動、小中連携授業改善研修の実施～

◎ 小中連携あいさつ運動

10月6日(木)に小中連携あいさつ運動を原田小学校校門周辺で行いました。この日は急に秋めいて、肌寒さく感じる朝となりました。本校から生徒ボランティア84名が参加し、登校する原田小学校児童や通勤中、散歩中の地域の方、見守りの皆さまとあいさつを交わしました。原田小学校の児童たちも元気にあいさつを返してもらい、原田小学校周辺では早朝にもかかわらず明るい声が和していました。南中生からは、「〇〇ちゃん、大きくなったね」「〇〇さんの妹、バスケット続けてる」など温かい声をかけていました。小中連携したあいさつの取組が、このような9年間のふれあいを生み、あいさつ文化の定着につながります。地域の皆さまからも、「朝早くから感心だね」「元気なあいさつ、ご苦労さまです」などの声をいただきました。子供たちにとって、地域の一員としての意識や自覚も芽生える機会ともなりました。



小さい秋見つけた

◎ 小中連携授業改善研修

10月13日(木)には、本校多目的室で小中授業改善研修の公開授業を行いました。宇美町教育委員会のご指導を受け、新型コロナウイルス感染症対策として、原田小学校からは安部校長先生をはじめ4名の先生のみにお越しいただき、他の先生はオンラインで参加するハイブリッド方式で研修しました。具体的には、2学年社会の烏田教諭の授業を本校及び原田小学校の教員が見て、小・中間で協働して取り組む授業改善のポイントについて協議しました。今年度は、「小・中間での学びの系統性」に焦点を当て、福岡県立高校入試問題をもとに授業を構想しました。その結果、子どもたちがこの問題を正答できるようになるには、小・中で系統性のある学習内容をどう取り扱うのか、どこに着目して教えるのかについて協議が深まりました。画面を通じて、原田小学校の先生と「中学校で教える内容を踏まえて、スーパーマーケット見学では他の産地の野菜が並べられている理由などを調査させたい」「具体的な数字を示した方が、子どもが納得できたのではないか」など貴重な意見を交わすことができました。小・中9年間を見通した教育課程を実現するための大きな1歩となりました。



歩道橋下での
あいさつ運動の様子



原田小学校正門での
あいさつ運動の様子



2学年社会の
公開授業の様子



小中学校教員による
オンライン協議の様子

被害者も加害者も生まない社会の実現に向けて

～薬物乱用防止講演会～

10月20日(木)6校時に、全校生徒を対象に薬物乱用防止講演会を実施いたしました。この事業は、本県が、薬物使用の低年齢化を受け、「学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実」を目的に実施しているものです。本年度は、NPO法人はあとスペースの山本美也子さまを講師にお迎えし、「命の大切さを学ぶ～飲酒運転撲滅への願い～」を演台にご講話を賜りました。皆さまご存じのとおり2011年、山本さまのご長男は飲酒運転事故で命を奪われました。山本さまから、「アルコールは脳を正常に働かせなくする薬物なので、誰でも加害者になってしまう。だから、被害者だけでなく、加害者を生まないように、アルコールについて知識をもつことが大切。」というお話をいただきました。その後、南中生は、酔っ払いめがねの着用やアルコールパッチテスト等を通して正しい知識を身に付けました。最後は、山本さまへの感謝の気持ちを込め、南中生全員で、山本さまに負けない元気な声で、飲酒運転撲滅を誓いました。命の大切さを学ぶとともに、その命を守る強い意志をもつ時間となりました。



酔っ払いめがね体験の様子



飲酒運転0の誓いの様子

ほっといい話 ～子育てサロンとのちょっとした奇跡のコラボ～

今年度、令和2年度からコロナ禍で中止となっていた「子育てサロン」が2年ぶりに本校多目的室にて開催されました。10月13日(木)が本年度の最終日にあたる日でした。この日は、暖かな優しい日差しに恵まれ、スタッフの皆さまとお子さま、お母さま14名ほどがお越しになりました。

ちょうど、合唱コンクールに向けた学級練習の時間に、3年1組が折しも中庭で「We Are The World」の練習を開始しました。すると、多目的室で遊んでいたお子さまたちが、3年生の歌声に引き寄せられるように窓に近づき、合唱の練習をじっと見つめはじめたのです。お母さま方も一緒に鑑賞いただきました。

言葉をまだうまく話せないお子さまにも、「歌」のよさは伝わるのですね。「歌」は、誰とでもコミュニケーションできるツールなのだ実感しました。改めて「文化」の価値を思い知りました。

もちろん、練習する3年生にとっても、心安らぐ、心温まる時間となりました。奇跡のコラボに感謝です。



3年1組「We Are The World」
合唱練習の様子